

特42

459

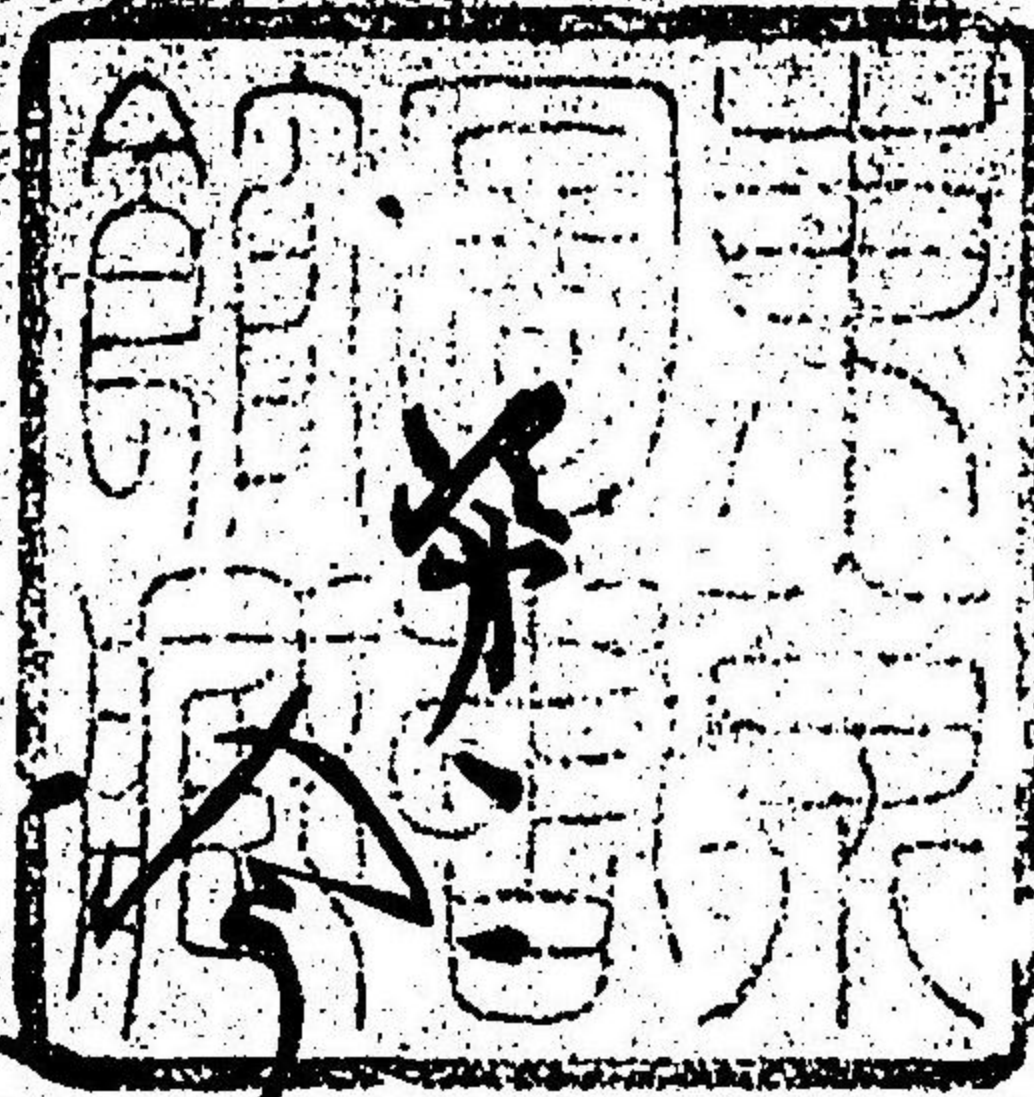
高砂

46

東京圖書館

一 一〇 冊	ノ ノ 號	四 七 架	ノ ノ 函	音 樂 類	和 書 門
--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------





高砂

と始の様  
目も行

了久し  
杉身九

其國阿  
神主

我事  
都

此度  
思

次  
精



きりぎりすのこゝろに  
松路さびしく思ふ浦の浪  
舟路長閑の浦ももくはたか  
節事さびしく白雲のさくらとざりし  
思ひの播磨の浦はさ  
きりぎりす高砂の松の書  
吹くわけて尾よの鐘も響あり

波の震は儀かたききと壇のま  
ひあきし報をかもか入よせん高砂  
の松も昔のあまてりさか  
きりぎりす積りうして若乃鶴  
なつとよさか命の書のお使  
起あまし松のまの園別く  
あまの書に思ひの計あり



下井...  
音信の松よとよ浦のの藩成の  
袖つとく本隆の康をさよとく  
上高砂の尾よの松を年  
ありて若乃の松よとよ浦のの藩成の  
下隆の藩成の松よとよ浦のの藩成の  
名可の松よとよ浦のの藩成の

名可の松よとよ浦のの藩成の  
ありて若乃の松よとよ浦のの藩成の  
下隆の藩成の松よとよ浦のの藩成の  
名可の松よとよ浦のの藩成の



生乃松とさかすかす ニ 信乃 ニ

古今の世序よ高砂信の白乃松を

相ま乃様よ愛しくとありと云ありと此

射の津の國住吉乃者、是れ成りたるを

當前乃人あれきんりありと云ありと

給人 甲 予 乙 也 丙 乃 丁 考 戊 人 己 の 庚 也 辛 序

一可よ有なりと云ありと信の白乃松乃

浦山國を隔てきりていふなりある

事 上 乃 下 乃 中 乃 左 乃 右 乃 山 乃 川 乃

萬里を隔てきたたりと云ありと

と云乃妹背乃道乃遠く 信

案 上 乃 下 乃 左 乃 右 乃 山 乃 川 乃

味 下 乃 松 乃 精 乃 の も つ た も 相 ま 乃 松 乃

方 乃 松 乃 ま ま 乃 松 乃 ま ま 乃 松 乃



年久多も佳青のう通ひ引さ  
耐と娘の云名女は此年まぐおま  
乃夫婦とあるおと 甲斐 謂と國の面自也  
梅と云はまおつね相まの松乃  
物語を可よらひ置いもれまなまか  
昔人のうすーの思まおぐたを命  
のまおつね 乙上 思まおぐたを命

万葉集のうすーの思 乙上 佳言と申さ

今此中代は信おつねを人の事  
松と云はまおつねの葉の 乙上 葉の 乙上 葉の  
おちあ 乙上 思まおぐたを命 乙上 思まおぐたを命  
月くまの 乙上 思まおぐたを命 乙上 思まおぐたを命  
まの目乃 乙上 思まおぐたを命 乙上 思まおぐたを命  
か 乙上 思まおぐたを命 乙上 思まおぐたを命















本<sup>日</sup>も我々君の國あまの國の御座り

君の御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

東

甲上

高砂や津浦舟子帆を折まきて

月渚其よ出堰の波乃浪路の御座り

幸もあはれなり仲もあはれなり

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

御座り御座り御座り御座り御座り

表

西乃海舟の御座り







つひにわさびる我の壽福とて  
多岐の民をささぐ萬屏樂の命  
をうまひ相まの松内觀の聲をた  
ぬき

右之本者觀世太夫織部  
章句真本令放行畢

正徳六丙申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛





明治十七年三月六日翻刻御届  
同年四月十二日別製本御届

翻刻人

京都府平民

寺田熊次

下京區第五組麩屋町

錦小路五梅屋町十三番戶





